

酷暑ビジネス

吉川 孝子

盆地である重慶市の夏は「4大かまど」と称される灼熱の夏であり、今年も40度に達した区・県が続出しております。

重慶市では毎年、夏になりますと（5月～10月）高原や農村への避暑地ツアーが売れ出され、経済効果をもたらしております。

市観光局の発表によりますと、市内には避暑、納涼のリゾート地が285ヶ所あり、今夏は、外地（重慶市以外）から例年の数倍の観光客が涼を求めて訪れ、道は渋滞し、避暑地内のプールは身動き出来ない混雑であったとの事でした。

<暑くて外出したくないときは>

酷暑は避暑地などの観光地域にのみに影響をもたらしたわけではありません。暑くて外出に出かけたくない、スーパーに行きたくない庶民により、この暑さの中、飲食のネット出前サービスの利用が急増しています。出前サービスアプリを考案、運営している「餓了嗎」ではアプリを経由した出前の売上は、2017年4月～6月の売り上げ459.5億元、去年同期比べ81.8%増とのこと。店舗においては、従来はメニューチラシを通行人に配布して注文してもらう人海戦術でコストも相当必要でしたが、今では、注文はアプリから入るため、営業コストが下がっているほか、今夏の一日の注文数は数ヶ月前の2～3日分にも相当するとのこと、歩合制の配達員の収入も倍増しています。

この出前サービスアプリ「餓了嗎」の2017年6月の利用者数は3,402.2万人。うちビジネスマンの利用は83%（出前代金ベース）、学生は10.1%とのこと。また、「餓了嗎」と同様の出前アプリの同月の利用者数は「百度外卖」1,748.9万人、「美团外卖」では2,989.7万人と相当な数の出前アプリ利用となっています。

また、この酷暑の中、大手家電量販店のエアコンも一日に20～30台の売り上げとなり、前年同期比40%増。ここが稼ぎ時と各家電量販店は客の呼び込みに冷たい飲み物はもちろん、避暑観光地のチケットまでサービスしていました。

ちなみに、これら出前サービスやエアコンの代金も、また街角で喉が渴いたときに買う冷たい飲み物等も、支払には90%以上は電子マネーが使われます。私も最近では電子マネーを使用していますが、最大のメリットはお財布に入れたくない、汚い紙幣に触れなくても良くなったことです。

<暑いビジネス>

さて、この酷暑ですが、重慶大学経済・工商管理学院の教授曰く『「気象現象」が人々の生活に影響を与え、『暑いビジネス』が消費を促進して経済成長を牽引している』との事で、経済には良い影響を及ぼしているようです。



「餓了嗎」の配達バイク